

研究計画書

1. 課題名：より有効ながん医療政策の決定に資する、がん対策に対する医療経済評価に関する研究

2. 研究の意義（背景）と目的

本研究は、昨年度に終了した厚生労働科学研究・小松班（より有効ながん医療政策の決定に資する、がん対策に対する医療経済評価に関する研究）の付随研究として行われる。がんに関する費用は、1）直接費用（医療費用＋非医療費用）、2）間接費用、3）精神社会的費用、に区分され、がん患者の通院に関わる費用（運送費用）は非医療費用に区分される。高齢化に伴い自力での通院が困難な患者が増加していると考えられるが、その実態は明らかではなく、既存の報告もほとんどない。政策的に外来化学療法が推奨され、長期間に渡り遠方のがん治療施設までの通院が必要となっているがん患者が多い。今後のがん医療政策を立案するにあたり、がん患者の運送費用を明示することが求められている。

3. 研究の方法：

帝京大学ちば総合医療センターおよび研究協力施設（神奈川県立がんセンター、東京北医療センター、他1～3施設を予定）の外来化学療法センターを利用して外来で抗がん剤治療を受けている患者の一覧を、電子カルテ Data Warehouse (DWH) を用いて抽出する。個人情報匿名化し、個人情報保護を徹底したデータベースを作成する。そのデータを MapInfo というソフトウェアを用いて運送に要する距離、時間を算出し運送費用を推計する。

4. 研究組織（○実施責任者 ◎個人情報に係るデータ管理責任者）：

・帝京大学ちば総合医療センター

○◎小松恒彦、第三内科（血液）教授

一色雄裕、帝京大学大学院第三内科所属大学院生

・本研究は多施設共同研究（共同研究機関：神奈川県立がんセンター、東京北医療センター）である。データ処理は主に一色が行い、結果の解析は一色と研究責任者である小松が主に行う。また研究期間中に組織の変更が生じた場合は速やかに倫理委員会に報告する。

問い合わせ・苦情等に対する連絡先

帝京大学ちば総合医療センター血液内科（TEL:0436-62-1237）